

概要

ISO/IEC 8859-1 は、ISO と IEC による文字コードの国際規格で、西ヨーロッパの諸言語の表記に使われるラテン文字を符号化するものです。ISO/IEC 8859 という規格の第 1 部です。通称として Latin-1 ともいいます。最新版は 1998 年に発行されています。

標題を「Information technology - 8-bit single-byte coded graphic character sets - Part 1: Latin alphabet No. 1」といいます。

符号の構造

ISO/IEC 2022 と整合的な 1 バイト符号化文字集合として定義されています。8 ビット符号表の GL 領域 (0x20-0x7F) に ISO/IEC 646 国際基準版 (ASCII と同じ)、GR 領域 (0xA0-0xFF) にはこの規格が定める文字集合を置いた形で使われます。

0xA0 と 0xFF にも図形文字を割り当てている 96 文字集合です。したがって、ISO/IEC 2022 で G0 へ指示することはできません。(GL への呼び出しは可能なことに注意。ISO-2022-JP-2 は Latin-1 を G2 経由で GL に呼び出す)

文字レパートリー

ASCII には入っていない、アクセントやウムラウトなどのダイアクリティカルマーク付きのラテン文字が収められています。例えばフランス語の表記に用いられるアキュートアクセント (アクサン) 付きの e や、ドイツ語の表記に用いられるウムラウト付きの a、ポルトガル語の表記に用いられるチルダ付きの a などです。アクサンシルコンプレクスの付いた母音字 aiueo がひとそらいはいつているので、日本語のローマ字表記にも使えます。ダイアクリティカルマークのつかない文字としては、ドイツ語に用いられるエスツェットや、フランス語・デンマーク語などに用いられる ae の合字などがあります。

また、記号類も入っています。数式の乗算・除算の記号や、著作権表示記号、通貨のポンド記号、円記号などがあります。ただし、ユーロ導入前に成立した文字コードであるため、ユーロ記号は入っていません。ISO/IEC 8859 の第 15 部として、ユーロ記号を含めた西欧言語向けの文字コードが定義されています。

特殊な符号として、ノーブレイクスペース (NBSP) とソフトハイフン (SHY) があります。前者は、その位置で改行を許さないようなスペース、後者は、単語の中で改行可能な位置を示し、その位置で改行するときだけ図形として表示されるハイフンです。

JIS X 0213 との関係

JIS X 0213 は ISO/IEC 8859-1 の文字を全て含んでいます。

ただし、符号位置 11/05 のマイクロ記号は、既に存在するギリシャ文字ミュー (μ) との重複符号

化になるため別区点を与えてはいません。

Unicode ならびに ISO/IEC 10646 との関係

Unicode ならびに ISO/IEC 10646 は、ISO/IEC 8859-1 の文字を並びも含めてそっくりコピーしています。U+00A0 から U+00FF までが ISO/IEC 8859-1 の右半分にあたります。

ISO/IEC 8859-1 は各文字について、ISO/IEC 10646 に対応する 文字名 を定義しています。

参照情報

- ・ ISO/IEC 8859-1 の文字コード表

正式な規格票は JSA Webdesk で購入できます。

関連項目

- ・ ISO/IEC 8859
- ・ ISO/IEC 8859-2